

『学会開催報告』

第60回呼吸器合同北陸地方会

集会長 石川県立中央病院 呼吸器内科 西 耕一

第72回日本結核病学会、第61回日本呼吸器学会、第46回日本呼吸器内視鏡学会、第31回日本サルコイドーシス学会の合同による第60回呼吸器合同北陸地方会が、平成20年5月24日(土)、25日(日)の2日間、金沢大学医学部G棟2階の第3講義室、第4講義室、およびF棟地下1階の大多目的室で開催されました(写真1)。

今回のプログラムは、集会長の意向もあって、特別講演3題、イブニングセミナー、ランチョンセミナー、一般演題54題、および呼吸器内視鏡の機器展示と体験コーナーと地方会としては盛りだくさんの内容を含んだものとなりました。

特別講演1の演題名は、「喫煙関連呼吸器疾患の診断、治療、そして予防について」で、演者は東京女子医科大呼吸器内科の永井厚志教授で司会は私が担当しました。私は、慢性閉塞性肺疾患患者の祖父をもち、自身が気管支喘息患者で、喫煙関連呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患や肺がんなど)の診療に従事する呼吸器内科医であることから、1999年からは禁煙外来も開設するなど、喫煙問題には従来から大きな関心をよせていました。永井先生は、呼吸器内科教授と東京女子医大の病院長の兼務という激務をこなしながら、日本呼吸器学会の代表として社会的に喫煙問題に取り組まれており、以前から金沢にお招きしたいと思っておりましたが、今回ようやく念願がかないました。永井先生のご講演はコンベンション支援放送サービスを受け、5月24日、25日の2日間限定で、金沢市内の主要ホテルの客室放送として放映されることになりました。このため、ご講演内容は一般市民の皆さんにもわかりやすい内容を心がけていただきました。ニコチン依存症の機序、タバコによる健康被害、特に喫煙関連呼吸器疾患の診断や治療について講演していただきましたが、呼吸器科医は喫煙関連疾患の診療に従事することが多いため、喫煙問題にますます真剣に取り組まなければならないと思いました。

特別講演2の演題名は、「肺末梢病変の診断におけるガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)の臨床と実際」で、演者は北海道大学第一内科の品川尚文先生で、司会は藤村政樹先生(金沢大学附属病院 呼吸器内科)が担当されました。品川先生は新進気鋭の呼吸器内視鏡専門医で、最新の超音波内視鏡による末梢病変の診断技術を御紹介されました。私が現在勤務している病院においても、超音波内視鏡を昨年度から順次整備しておりますが、北海道大学病院など先進的な病院に少しでもついて行けるよう、より一層頑張らなければならないと改めて思いました。また、本講演ではハンズオンセミナーも行われ、品川先生ご自身による実技指導も行われました(写真2)。

特別講演3の演題名は、「元気の出る呼吸器科を造ろう」で、演者は国立病院機構名古屋医療センター呼吸器科部長の坂 英雄先生で、司会は石崎武志先生(福井大学医学部附属病院 呼吸器内科)が担当されました。坂先生は肺がん診療と呼吸器内視鏡によるインターベンションの2つを診療の柱とし、外来化学療法室や禁煙外来などを立ち上げるなど、意欲的に様々な呼吸器臨床に取り組んでこられた先生で、私どものような一般病院の臨床医の模範的存在といえます。「元気の出る呼吸器科を造ろう」という演題名でありながら、実際のご講演内容は「元気な呼吸器科医による呼吸器診療の実践」というべきものであり、楽しんで積極的に仕事に取り組む坂先生は、きっと研修医にとって魅力ある存在であるに違いないと、結果として優秀な研修医が坂先生の下に多数集まり、働きやすくやりがいのある職

場環境ができるようになることをご自身のご経験を踏まえて、熱くご講演をされました(講演時間も予定の1時間を軽く越えて、1時間半もの大講演となりました)。呼吸器科医は、小児科医、産婦人科医、麻酔科医とならんで医師が不足している診療科ではありますが(世間ではまだまだあまり注目されてはいませんが)、今後、呼吸器科を目指す医師を増やすためには、呼吸器科医自身がルーチン業務に忙殺され燃え尽きることなく、楽しんで仕事に取り組むことにより、周囲から魅力的にみえる存在となるように努めなければならないと痛切に感じました。

イブニングセミナーは医学生や初期研修医が呼吸器診療に関心をもっていただけるよう5月24日(土)の土曜日18:00~20:00に行われました。司会は原 丈介先生(石川県立中央病院 呼吸器内科)と早稲田優子先生(金沢大学附属病院 呼吸器内科)が担当されました。まず、「呼吸器感染症について」と題した田邊嘉也先生(新潟大学 第二内科)のご講演、次いで、「睡眠時無呼吸症候群について」と題した篠田千恵先生(社会保険高岡病院 内科)のご講演、最後に「気管支喘息について」と題した片山伸幸先生(金沢大学附属病院 呼吸器内科)のご講演が行われました。いずれもわかりやすくてためになるご講演で、当病院の研修医にも大変好評で、専門医もうならされる内容でした。

また、54の一般演題の多くは症例報告でしたが、18のセッションに分かれて専門医の間で熱い議論がなされ、大変実りの多い学会となりました。

学会には、会員の他に17名の研修医と10名のご開業の先生のご参加があり、2日間のべ参加人数は300名を越えるものとなりました。

石川県立中央病院 呼吸器内科に勤務する医師は私を含め3人しかおらず(写真1)、学会の開催自体が随分危ぶまれていましたが、関係者の皆様のご尽力によりどうにか学会を無事開催することができました。関係者の皆さん(特に金沢大学旧第3内科の医局スタッフの皆さん)には、心より深謝申し上げます。

